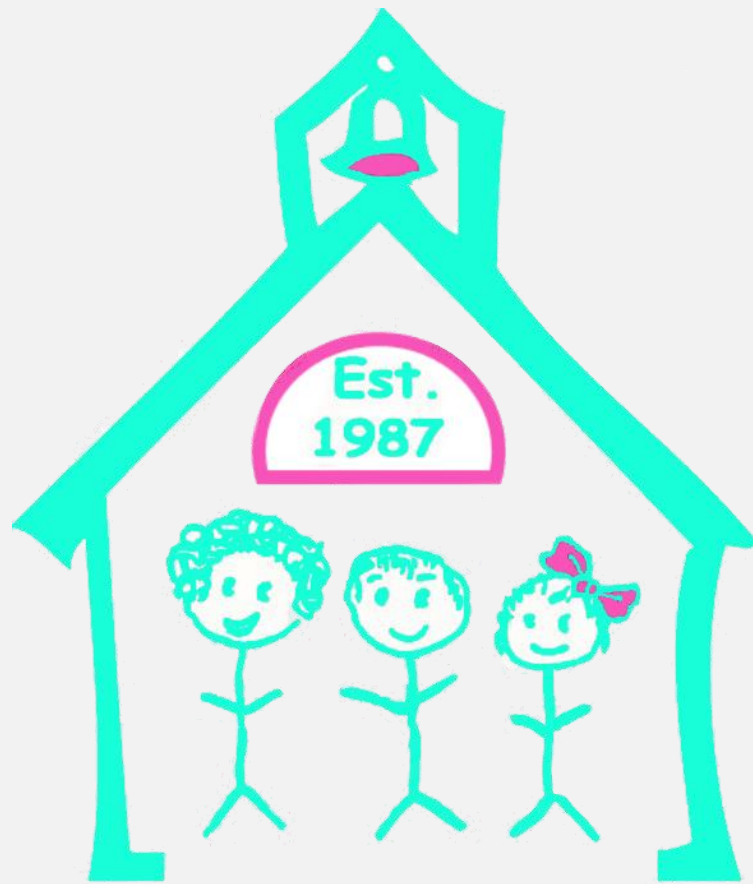




Little Corner SchoolHouse

ペアレントハンドブック
(園生活の手引き)



保護者の皆様へ

初めまして。リトルコーナースクールハウス (LCSH) のエグゼクティブ・ディレクター、アイナ・ブラザーです。LCSH は 1989 年に私の自宅で開いた小さな託児所から始まり、現在に至っています。お子様が通うデイケアとして LCSH を選択いただきましたことに心から感謝し、光栄に思っています。

当センターは、安全で信頼の出来る環境、しっかりした教育と楽しい環境を提供し、子ども達にとって最善のセンターとなるよう努めています。本ガイドブックは、センターに関する情報をまとめたものです。保護者の皆様からのすべてのご質問にお応えするものではありませんが、当センターの方針や具体的な手続き等のガイドラインとして参考にさせていただきたいと思います。

ペアレントハンドブックの作成を始めた当初から、より良いハンドブックを目指して改訂を重ねてきました。今後もハンドブックについてご意見等がありましたら、E メールでお寄せ下さい。次回改訂時に検討させていただきたいと思っています。

また、幼児教育センターでは、皆様のご希望一つ一つ全てに応えることは不可能です。当センターは、安全で楽しい教育環境を子供達に提供することを目的としています。当センターのカリキュラム、方針等が、ご家族、お子様に適切なものであることを充分にご検討いただきたいと思います。

ご質問等がありましたら、私宛に、電話 617-244-1877、または、E メール contact@littlecornerschoolhouse.com でご連絡下さい。

エグゼクティブ・ディレクター
アイナ・ブラザー

目 次

目的と教育方針	4
カリキュラム：子ども主体の教育と学習方針	5
子ども主体のカリキュラム	5
保育士と子供の関係の意義	6
インタラクティブプロセスとしての「学び」	7
日々の「学び」の内容	8
カリキュラム	9
水泳	9
音楽	9
料理教育	9
サイエンス(科学)	10
1日のスケジュール	10
乳児クラス(インファント)： かわいいスイート・ピー達	11
幼児(トドラー)： 小さなパドルジャンパー達	11
プレスクール： 小さな探検家達	12
PRE-K： 小さな学者達	14
持ち物リスト	15
行動管理	17
センター開園時間とスケジュール	17
祝日	19
雪/緊急事態による休園	18
方針と手続き	19
送迎	19
入園手続きとデポジット	19
月謝	19
退園	21
契約終了	21
慣れ保育	21
保育士の異動	21
保育士の欠勤と休暇	23
保護者の参加	23
保護者による監督	24
センター訪問	24
保護者/保育士面談	24
事前に予定された欠席/休暇	27
親権オーダー	25
保護者の同意	25
承認された成人	25
書面によるコミュニケーション	25

事故及び怪我	26
医療記録	27
緊急連絡先情報	27
病気	28
隔離	29
切り傷、腫れ	29
回復後の再登園開始	29
医療品管理	29
非処方薬	30
応急処置(ファーストエイド)	30
アーリーインターベンション(早期療育)	31
火災時の避難	31
その他の緊急事態	31
おむつ	32
トイレトレーニング	33
衛生	33
日焼け止め	34
遠足	34
公園及びプレイグラウンド	34
徒歩での散歩	35
食べ物	35
衣類及び備品	36
衣服や持ち物の紛失	36
休息タイム	37
昼寝(休息タイム)用寝袋	37
風船の禁止	37
ペット	37
バースデーパーティー	37
宗教/文化的祝日	38
言語	38
写真撮影	38
 FAQ(よく寄せられる質問)	 39
 THANK YOU!	 41
 メモ欄	 42

目的と教育方針

リトルコーナースクールハウスは初期教育を目的とする施設であり、生後 8 週間から 6 歳までのお子さん(新生児から幼稚園児)と保護者の方にサービスを提供しています。

LCSH は、子ども一人一人のニーズを理解し、保護者の方々との協力のもと、安全で愛情にあふれた「学び」の環境を提供します。

子ども主体の環境では、社会的、情緒的、感受的、そして身体的と、すべての分野の発育を促します。発育段階に合わせた当センターのカリキュラムは子どもの自尊心も育成します。

センターでは、子どもが自分の力に対応できるスキルの習得を促し、興味・好奇心の育成に努めています。同時に、プログラムを通して尊敬、つまり他の人を思いやる心を育て、センターに集う様々な文化を尊重する心をはぐくみます。センターでは、様々な文化習慣や祭典の体験を通して、異なる文化習慣を持つファミリーが結びついています。

ご関心がありましたら、ぜひ LCSH を訪問し、ディレクターにお会いいただき、センターの見学をご体験下さい。見学時には、このペアレントハンドブックや料金体系を含む書類一式(アドミッション PACKET)をご覧ください。

また、当センターではサービスの提供にあたり、子ども、そして保護者の人種や宗教、文化/国家的背景、政治理念、婚姻の状況、障害、性的指向等をも差別するものではありません。

カリキュラム： 子ども主体の教育と学習方針

子ども主体のカリキュラム

LCSH のカリキュラムは子どもが主体です。私たちは子どもの発育の普遍的なパターンとマイルストーンを理解し、様々な子どもの年齢に合った教育知見に基づくアプローチをカリキュラムに取り入れています。同時に、幼児教育における基本的な前提も尊重しています。つまり、子どもには一人一人個別の発育能力、性格、そして学びの様式があるという理解が、当センターのカリキュラムの前提です。カリキュラムのアプローチは、教科書等にあるガイドラインを超えて、日々変化していく子どもの興味や能力、ニーズに合ったものとなるようにデザインされています。

当センターの子ども主体のカリキュラムの方針は、**幼児期の子ども達が持つ特別な資質を尊重**すること、その子どもの資質が成長と発育の過程で開花していくことを見守る真の喜びに根付いています。例えば、私たちの幼児に対するイメージも、“たいへんなわがまま君主”というような世間一般のものではなく、個人としての自主性の新しい芽生えを大人の世界に向かって誇らしげに（時には少々やかましく）主張していると捉えます。子どもを慈しみ、そんな子どもの発見と学びへの旅のスタート地点で出会えることを、私たちはとてもうれしく思います。学びに向かってそれぞれの子どもがたどる道は異なり、その子どもなりのユニークな学びのスタイルがあります。当センターのカリキュラムは、子どもに様々な学習経験と機会を提供し、各々の子どもが自分に一番合ったスタイルを自分自身の学びのスタイルとして確立していくことの助けになるよう、デザインされています。

LCSH のカリキュラムは、慈しみのカリキュラムであり、それぞれの子どもの自尊心の成長を促していくことを基本的な目標としています。子どもは、大人達から十分な愛情と慈しみを無条件に受けて育つと、自分自身がとても重要で有望な個人であると思えるようになります。また、遊びの中で、大人が持つ成功や失敗の概念にとらわれずに、自分自身で選択する機会を与えられると、ポジティブな自己イメージを持つことが出来るようになっていきます。

子ども一人一人が、自分で選択した学びの活動において成功する体験をする必要があります。子どもとの対話、対応にはたった一通りの“正解”があるわけではありません。障害物コースを通り抜ける自分なりの新しい方法を創り出したプレスクールの子ども、いろいろな入れ物に砂を入れたり出したりしているトドラークラスの子どもは、両方とも各々の行動に力と可能性を見出しており、同時に、自分独自の世界での学びを体験しているのです。保育士達はそんな発見を見守り、子ども達の努力を認めて励まします。私たち初等教育者としての成功は、各々の子どもが、価値ある存在、可能性を秘めた学習者であることを認識できるよう、どれだけ手を差し伸べることができるか、という点にあるのです。

保育士と子どもの関係の意義

幼児期に最初に体験する成長の課題としてエリクソンが挙げているのは、「信頼」です。「信頼」は、子どもと子どもの世話をする人々、つまり両親と保育士双方のの関係の中で築かれるものです。「信頼」は効果的な学びのための第1の条件です。「信頼」によって子どもの中に幸福感と情緒的な安定が生まれ、子ども時代の様々な体験から将来の学習のためのしっかりとした基礎が出来上がります。幼児期に大人との信頼関係を体験できないと、子どもは学びの過程で必ず直面するリスク(危険)に遭遇したときにうまく対応することができなくなります。

当センターの保育士の大きな目標は、LCSHの保育プログラムにおいて子どもと信頼関係を築き上げることです。保育環境の中で子どもが保育士を通してポジティブな(正の)経験を楽しめるようになると、信頼が生まれ、育ちます。子どもが信頼を築き上げようとする時には、子どもが何を必要としているかを理解し、常に愛情にあふれた的確な対応ができる、きめ細やかな「世話人」である保育士が必要です。これは特に乳児クラスでは顕著です。乳児クラスでは、優しく抱いてミルクを飲ませたり、泣き声に敏感且つ的確に反応してストレスを取り除くことが重要です。同時に、トドラークラス、プレスクールの保育士は育成者であることも重要です。保育士は、泣いている幼児を優しくなだめ、プレスクールの子どもの言う事に注意深く耳を傾け、質問や要求に慎重に且つ適切に対応できなければなりません。思いやりを持って接する保育士との対話により、子ども達は愛情を注いでくれる大人達を信頼するようになるだけでなく、自分が大切にされていること、大切な個人であること、そして自分の泣き声を聞いてくれる、必要なことは助けてくれる、自分の意見を聞いてくれる、という自分に対する正の概念が育まれていきます。子どもの自主性はそのような慈しみの対話、対応から生まれてきます。過剰なコントロール、あるいは介助のし過ぎ、といった保育士の対応は、子どもの自立や自我の芽生えを促すものではありません。

LCSHでは、最も効果的な保育士とは、子どもに愛情を注ぎ、子どもに喜びを見出すことのできる保育士、あるいは、アリス・ホーニグが雄弁に語っている「称賛と喜びに光り輝く人々」であると理解しています。保育士は当センターの要です。保育士と子どもとの対話には、何よりも子どもを尊重する保育士の真摯な姿勢が映し出されています。当センターの保育士は子どもと関わっていく仕事にエネルギーを注ぎ、熱意を持って臨んでいます。保育士は頻繁に優しく子ども達と接し、各々の子どもと1日の活動を通して、また、日常の世話を通して、暖かい笑顔で対話をし、優しく抱いてコミュニケーションを図っています。保育士は子どもの発見、笑顔も日々共有しているのです。

子どもと保育士の間に築き上げられた基本的な関係の力を過小評価してはいけません。LCSHの園児全員が最高の保育を受けるためには、保育士と子どもの対話すべてに愛情が注がれ、適切且つ的確であることが大切です。カリキュラムがどんなに豊富で発育に合ったものであっても、慈しみ深く適切な保育士と子どもの間に築かれた強くてポジティブな関係が基礎に無ければ、カリキュラムの効力は発揮されないのです。

インタラクティブプロセスとしての「学び」

幼児期の子どもにとって、学びは対話のプロセスです。幼児教育に関するリサーチによれば、幼児期の子どもは、大人や他の子ども達、教材との能動的な関わりや対話を通して学習する時に最大の効果を得ることができます。多くの小児発育の専門家が言うように、私たちも、子どもの自発的な遊びが幼児期における学びと発育の主要な原動力となると考えます。特に、子どもが自発的に遊びや活動を行ったときに「学び」があります。当センターでは、子どもが様々な活動、教材、道具の中から自発的に選択できよう機会を与え、また自発的に「探検」できる時間を提供します。

「学び」における対話のモデルとなる保育士は、私たちが子どもだった頃の先生、生徒のグループの前に立ち、無限とも思えるような知識の泉から流々と情報を湧き出させている教師、とは様変わりしています。特に幼児期の子どもにとっては、カリキュラムは単なる学習項目のチェックリストではありません。カリキュラムは、幼児教育の教室において日々営まれる学びのすべて、子どもの体験すべてとも言えます。保育士は、そんな子ども達の「探検」や「発見」を共に体験し、子ども自身が自分で模索することの手助けをします。大人の感覚での「正解」を押し付けたり、大人のものさしで計ることはしません。子どもが多く有意義な発見をし、自分なりの新しい概念を育てていくことができるよう、保育士は子どもの自発的な「学び」の手助けをします。子どもは、世界を理解して自分なりに納得したいという自然な欲求を持ち合わせていますので、常に自分の体験から学び、自分なりの知識として積み上げて行くのです。当センターの保育士はそのような発見のプロセスの手助けをします。

LCSH のクラスルームにおける保育士の役割は、子どもが教材や周囲の人々との活発な探検、対話を通じて「学び」を体験できるよう、関心を喚起するような環境を準備することです。当センターの保育士は、子ども達に様々な活動の選択肢を提供し、子どもが自分で選択した活動に関わっていく過程をサポートします。発育段階に合ったプログラムの中では、子どもが自分の興味や習得してきたスキルに見合う学びの活動を自分で選択しますが、保育士もまたこのプロセスの中で重要な役割を担っています。子どもが能動的な学びの体験をすると、保育士は質問や提案をしたり、より高度な教材や概念を与えることで、子どもの学びの体験を深め、子どもの思考を刺激します。保育士が適切なタイミングで思慮深い助言を与えると、子どもの能力は格段に飛躍し、思考能力を鍛えることになります。子ども自身の体験を体系的に利用することで、保育士は子どもの知識を積み上げ、可能性を広げていきます。

学びのプロセスは、子ども自身の能動的な模索、探検、体験に基づいたダイナミックな対話型(インタラクティブ)の性質を持つものですから、教師が特定の結果を目指して指導をする場合とは異なり、幼児教育においては特定の「物」としての結果を求めるものではありません。各々が持ち合わせる固有の価値観によって認識されるプロセスです。実際には、学びの体験の内容そのものは重要ではなく、「学び方」と「学びへの能動的な参加の方法」を身に着けるプロセスが重要です。大人の特定の学習経験に基づいた「完成品」や「正解」は、子どもが自立した学習者、思考者、行動者であることを判断するためには正確な方法とは言えません。子どもの能力の成長を垣間見ることができるのは、遊びそのものの「質」に他なりません。

例を挙げ説明しましょう。子どもが特定の教材を与えられ、特定の 방법으로、先生が自分の体験から得たコンセプトに基いて作成したモデルを複写するように言われたとします。（つまり、プレスクールの子どもすべてが先生の絵と同じ絵を描くように言われたとします。）そのような状況下では、子どもの学びはある特定の結果に限定されてしまいます。大人のモデルを複写するという作業においては「成功」と言えるでしょう。しかし、子どもの学びは本質的には「模倣」という、最もシンプルで単純な学びの形に限定されてしまいます。「模倣」は乳児には貴重な体験ですが、成長盛りの子どもがそこから生涯に渡る学びへ繋がる体験を得ることは困難です。また、このような活動は、幼児期の子どもの自尊心やイニシアチブの発育には有効ではないとも考えます。保育士が子どもに学び方や学ぶべきことを指示することは、子ども自身の考えは重要ではなく価値も低いというメッセージを発信することになるのです。

私たちの意図するところは、初期の学びにおける発達に則したカリキュラムのモデルを提供することにあります。子どもは教材の選択肢を与えられて、自分特有のコンセプトにあったものを自分で選択できる状況では、能動的に活動に関わることができます。幼児期の子どもであっても、知的、身体的、情緒的に学びを体験することができる道具が与えられれば、「学び」に能動的に参加していくことができるのです。この目標を達成するには、子どもは「学び方を学ぶ」プロセス生涯に渡って必要なスキル（つまり、何をどのようにするか自分で選択し決定できること、プロジェクトの立案をし完了するまで遂行すること、革新的で独創的なアプローチができること、問題の解決ができること、有効な情報源を見つけて使えること、自分で選択するという新しいスキルを学びの体験に活用すること）を学ばなければなりません。

子どもはこのようなプロセスに関わることで、“自分特有のユニークな方法で物事に対応できる良き学習者”として自分自身を評価できるようになります。なぜなら、彼らにとって大切な大人が彼らの考えを評価するからです。生涯に渡って学ぶ人となるには、子どもが世界と関わって生きていく喜びに出会い、学びのプロセスそのものに喜びを感じるという本質的な動機を体験することに勝る方法はありません。

当センターのカリキュラムの目標を達成するには、保育士は新しいアイデアに常に前向きでなければなりません。そして当センターの場合、新しいアイデアの多くは同僚の保育士同士で生み出しています。LCSHの保育士チームは、クラスルームのカリキュラムの製作に優れた能力を発揮しているだけでなく、他のチームメンバーの能力や貢献も十分に尊重します。保育士がお互いに協力し合うことで、当センターのカリキュラムは、より質の高いものとなっています。

日々の「学び」の内容

発達段階に合ったカリキュラムでは、子どもの知的、身体的、社会的、情緒的な発達分野のすべてにおいて総合的な学びの機会を得ることができます。そして、子ども各々の長所、ニーズ、興味を定期的に評価し、それらに基づいてカリキュラムを作成します。保育士が子どものために作成する学びや遊び体験は、創造的な活動に積極的に関わることによって、子どもの能力をさらに伸ばすことができるようにデザインされています。

子どもは周囲のものに触り、操り、実験することで様々なことを学んでいきます。当センターでは、様々な方法で学びの世界を探索できるよう、毎日様々なオープンエンド型(一定の型にはまらない)のプロジェクトや教材を使用しています。例えば、塗り絵やパターンの決まったアートではなく、粘土やイーゼルペイント、コラージュなど、子ども達が自分独自の創造的な感性を表現できるような教材を使用します。また、子ども達の実際の生活や体験に関連する具体的で現実的な活動や教材を取り入れています。文字や数のような抽象的な対象を理解するよりも、実物を使っての遊びや体験が重要ですので、ワークブックやドリルシート等は、当センターで取り入れる教材としては不適当と考えます。

子ども各々の家庭状況、文化的な背景も、年齢相応かつ可能な範囲でカリキュラムに取り入れています。様々な文化的要素も取り入れ、固定観念に捕らわれない教材や体験を提供することで、子どもの自己概念、自尊心を高め、それぞれの共通点、相違点を受入れ、尊敬する心を育てます。

幼児期の子どもには、教材や活動を十分に体験する時間が必要です。従って、毎日のスケジュールには、子ども達が学べる時間ー調査し、選択し、根気よく持続する時間ーを十分に組み込んでいます。当センターでは、1日を通して、活動的な時間と休息の時間をバランスよく組み合わせています。典型的な例は、運動を取り入れた活動的な時間と、読み聞かせタイムや音楽、指先を使った遊び等の静かな時間を交互に取り入れています。スケジュールは1日の全体の流れのガイドとなりますが、各々の子どものスケジュールに適合できるよう、また、突然訪れる学びのチャンスー幼児教育の専門家は「教える瞬間」と呼んでいますーも逃さず活用できるよう、十分に柔軟なものとなっています。

カリキュラム

当センターの子ども主体のカリキュラムについて保護者の皆様により良くご理解いただくため、下記にカリキュラムの概要をまとめました。

水泳

子どもの早期教育において、スイミングは重要な役割を果たしています。泳ぐという運動を通して健康的な習慣を促進し、身体的なコーディネーションの発達を促します。また、泳ぎは安全面でも大切です。LCSHでは、ブライトンのOak Square YMCA(オークスクエアYMCA)で行われるスイミングレッスンに参加しています。レッスンでは、インストラクターに加えて、2人のライフガードが常駐しています。インストラクター1人につき、子どもは6人以下です。

音楽

音楽は、幼児期の子どもの知覚の発達に多大な効果をもたらします。LCSHでは、音楽を重要な科目としてカリキュラムの中に位置づけています。音楽を体験することで、子どもの数学の能力や読解力、知覚的な集中力も高まり、協調性や自尊心も育てる、という研究結果も報告されています。当センターでは、多々ある保育施設の中でも他にない独自のアプローチを取り入れており、専門家を招いて毎週音楽の時間を設けています。

料理教室

LCSH では料理の時間もカリキュラムに取り入れています。LCSH のすべてのセンターでユニークなキッチン体験ができます。このカリキュラムでは、単なる調理やベーキング(お菓子作り)のスキルを超えた、幼児期の子どもにとっては非常に重要なスキル、レッスンを学ぶことができます。料理の体験を通して子ども達は、手先の運動機能を促進し、計測する、注ぐ、かき混ぜる、加える、合わせる、等のスキルを習得します。このような身体的な発達に加え、始めは様々な異なる材料だった物が最終的にひとつの食べ物という完成品になる、というプロジェクトに関わる体験をし、がんばりとがまんが実を結ぶ、という体験をすることが出来ます。シンプルな材料をおいしい一皿に創りかえることができる、という子どもの気づきがあった時、創造性と自信が花ひらくこととなります。料理を学ぶことで、子どもの中に食べ物を大切にすることが芽生え、また健康的な生活を送るスキルも習得します。

料理を学ぶにあたり、健康的な選択、食品の定義、キッチン道具の安全な使い方(子ども自身はキッチンには足を踏み入れませんが)、食品の安全な取り扱い方、準備方法(手洗い等)等、年齢に相応なレベルの話し合いを行います。また、子ども達の様々な民族的背景も料理を通じて体験します。

具体的には、下記のような体験をします。

2 歳児のクラスでは、ジャガイモを洗ってつぶし、パンやブロッコリー、えんどう豆などをちぎります。また、バナナや梨を切ってつぶすこともあります。3 歳児のクラスでは、ラップをかける、ケーキの生地を混ぜて注ぐ、バターやトマトソースを塗る、にんじんやじゃがいも、りんごなどの皮をむく、生地をのばす、卵を割る、かぼちゃをつぶす、などの作業をします。

サイエンス(科学)

幼児期の子どもは、周りの世界への好奇心、不思議な疑問にあふれ、クラスルームは、毎日そんな子ども達の好奇心で満ちています。当センターのサイエンスカリキュラムは、子どもの自然な好奇心、疑問、想像力を受けとめ、育てることを目的としています。大人はサイエンスを実社会とはかけ離れたものと捉えがちですが、子どもにとっては彼らを取り巻く日々の世界の中で何かを発見すること、そして実際に毎日起こっていることなのです。このような好奇心を有効な方法で満たすことが私たち LCSH の目的です。当センターでは独自のサイエンス教育をカリキュラムに取り入れ、専門の先生によるクラスを毎週取り入れています。

1 日のスケジュール

では、私たちがどのようにカリキュラムを組立っているかご紹介しましょう。下記はリトルコーナースクールハウスでの 1 日のおおよそのスケジュールです。当センターでは、まず子どもの安全を最優先し、楽しく学べる環境作りを目指しています。ゴールは、子どもの自然な好奇心を育て、学ぶことそのものへの好奇心と関心を育み、子ども達の将来へ向けての準備の手助けをすることです。

注： スケジュールは日によって変更になることがあります。また、天候や季節、活動やスタッフの状況、子ども達の習得状況によっても変更になることがあります。

乳児クラス(インファント)： かわいいスイート

乳児クラスでは各々の子どものニーズに合わせて個別のスケジュールで対応しています。子どものニーズに合わせて授乳、昼寝、おむつ交換等を行い、様々な年齢の段階に適したおもちゃやゲーム、アクティビティから成長段階にあったものを選択して活動します。保育士も乳児の世話に良く慣れたベテランの保育士です。また、乳児クラスの子どもには、ジッパー式のワンピース型寝袋が貸与となります。これらの寝袋はブランケットよりも安全です！

当センターの乳児クラスのプログラムは朝 6 時 30 分から夕方 6 時 30 分までです。

幼児(トドラー)クラス： 小さなパドルジャンパー(水溜りでの跳ねっ子)

スケジュール

6:30-8:00	登園(早登園の場合)、朝食 ストーリータイム(言語の発育)
8:00-8:55	登園、保護者とのブリーフィング、自由遊び その日のクラスルームのセッティングに慣れ、興味を引き出します。
8:55-9:00	片付けタイム
9:00-9:30	朝のおやつ スナックタイムは健康的な食事の習慣を促進します。(果物、全粒食品(ホールグレイン)、ヨーグルト等)
9:30-10:00	おむつ交換、自由遊び 保育士と子ども一対一での対話、手洗い、歯磨き
10:00-10:30	朝の会(サークルタイム) カリキュラムのテーマに沿って朝の会を行います。具体的な活動の例：グルーピング・インターアクション、朝の歌、挨拶、今日の天気は?、トドラー・ルームのお友達(今日は誰がいるかな? 今日とはどんな洋服を着ているかな?等)、多言語の発達(色、身体的感覚、指示への従い方、反復 - 初期読み取りスキル)、歌、形、触覚(テクスチャー)、テーマに関連したコンセプトでの活動、次のカリキュラムへの移行の準備

Little Corner SchoolHouse

10:30-12:00	運動(グロスモーター)感覚の認識：プレイグラウンド 視覚と手のコーディネーション、体全体のコーディネーションと視覚化を目的とした活動を目的としています。天候がよければ、プレイグラウンドの砂場やジャングルジム、散歩や水遊び等を行います。
12:00-12:30	昼食 健康的で、たんぱく質、炭水化物、脂質等のグループすべてからのバランスの取れた食習慣を身につけ、水分の補給(水、ミルク)を行います。
12:30-1:00	昼食後の移行タイム 各々の子どもとの一対一の対話の時間です。食後の片付け後、おむつ交換、手洗い、歯磨き、クラスルームの整頓、ランチボックスの整頓をして昼寝の準備をします。(昼寝用の寝袋に入り、絵本の読み聞かせ、明かりを落として子守唄等の音楽を流します。)
1:00-3:00	昼寝 心身を休め、リフレッシュします。
3:00-3:30	目覚めタイム おむつ交換、静かな活動(お絵かき、塗り絵、読書等)
3:30-4:00	ミュージックタイム、運動感覚の認識、記憶の確かめ 朝の会での活動、トピックの復習
4:00-4:30	午後のおやつ 夕食前の補給ー(果物、ヨーグルト、ミルク等)
4:30-5:30	プレイグラウンド(天候によって) 午後の外遊びは、感覚の発達を促し、模倣遊びや、プレスクール、Pre-Kのクラスメート達と交流します。天候の状況により、インドアプレイとなった場合は、午後の会(サークルタイム)があり、読書やカリキュラムに沿った活動を行います。
5:30-6:00	片付け、お迎え
6:30	センター閉園

プレスクール： 小さな探検家達

6:30-9:00	登園、保育士と朝の挨拶。自由遊び 朝の登園直後の時間には、様々な教材や活動を準備し、各々の子どもの発達レベルに応じて活動します。保育士もこの時間には子ども各々の興味やニーズ、能力に注意を払います。
-----------	--

Little Corner SchoolHouse

9:00-9:15	朝のグリーティングタイム 朝の会ではクラスルームでの社会的行動の基礎を構築します。
9:15-9:35	朝のおやつ 健康的な食習慣、自分でする力、テーブルマナー、積極的な社交活動を身につけます。
9:35-10:00	バスルームタイム(歯磨きも含む) バスルームを正しく使用することで、正しい衛生観念を身につけ、トイレトレーニングへの自信を身につけます。
10:00-10:30	朝の会(サークルタイム) サークルタイムで目指すのは、自発的な学びです。テーマを深く掘り下げ、子どもの実際の生活と結び付けて学びを深めます。サークルタイムでは歌や、読み聞かせ、ゲーム、ディスカッション、体操、などのグループ活動を行います。
10:30-12:00	カリキュラムテーマ活動：外遊び LCSHのスタッフがきめ細かくプランした活動では、多種多様な媒体や教材、学びのスタイルを体験します。保育士は、学習ユニットのテーマに直接結びつく活動をうながします。アウトドア活動では特に、自然との結びつきなど、生涯に渡って利益をもたらすテーマに注意をひきつけるような活動を行います。また、子ども達が体を動かすことで、大小の筋肉機能の発達も促進します。
12:00-12:30	昼食 朝のおやつと同様、昼食でも健康的な食習慣を身につけます。
12:30-1:00	バスルームタイム、歯磨き、ストーリータイム 朝のバスルームタイムと同様ですが、この時間にはストーリータイムがあり、リラックスして昼寝の準備をします。
1:00-3:00	休息タイム 休息でリラックスし、リフレッシュします。 子ども達が休息中、保育士は活動やカリキュラムの準備をします。
3:00-3:15	バスルームタイム 休息タイムの後のバスルームタイムでリフレッシュします。
3:15-3:45	自由遊び 朝のフリースタイルと同様、子ども個々の興味、ニーズ等に合わせた活動を行います。
3:45-4:00	1日を振り返って 歌や本を使い、今日のトピック、学んだことを復習します。

Little Corner SchoolHouse

- 4:00-4:30** **午後のおやつ**
朝のおやつと同様、社交的インターアクションスキルを促進します。
- 4:30-4:45** **バスルーム**
再度バスルームを使用し、適切な衛生習慣を促進します。
- 4:45-6:00** **自由遊び/外遊び：お迎え**
天候や外の明るさにより、インドアまたはアウトドアで活動します。
- 6:00-6:30** **お迎え：読書**
お迎えを待つ間、読書などで言語の発達を促します。お迎え時には保育士が保護者と今日1日について話をします。

Pre-K: 小さな学者達

Pre-K クラスルームでは、口頭でのプレゼンテーションなど、参加型活動が増えます。プレゼンテーションのトピックとしては、動物、食べ物、惑星、天候、体など、様々です。特別カリキュラムとして、サイエンス、スイミング、演劇、音楽があります。遠足もあり、ブルックラインにあるレストランを訪ねて多種多様な料理を体験することは当センターのカリキュラムのアイコンとなっています。演劇プログラムでは、子ども達自身が指揮を取り演じる演劇発表が年に1~2回あります。子ども達が台本を作り、衣装も自作です。クッキングプログラムも行っています。

- 6:30-9:00** **登園、保育士、保護者とのブリーフィング：自由遊び**
朝の登園直後の時間には、様々な教材や活動を準備し、各々の子どもの発達レベルに応じて活動します。先生もこの時間には子ども各々の興味やニーズ、能力に注意を払います。
- 9:00-9:15** **朝のグリーティングタイム**
朝の会ではクラスルームでの社会的行動の基礎を構築します。
- 9:15-9:35** **朝のおやつ**
健康的な食習慣、自分でする力、テーブルマナー、積極的な社交活動を身につけます。
- 9:35-10:00** **バスルームタイム**
バスルームを正しく使用することで、正しい衛生観念を身につけ、トイレトレーニングへの自信を身につけます。
- 10:00-10:30** **朝の会(サークルタイム)**
サークルタイムで目指すのは、自発的な学びです。テーマを深く掘り下げ、子どもの実際の生活と結び付けて学びを深めます。サークルタイムでは、歌や読み聞かせ、ゲーム、ディスカッション、体操、などのグループ活動を行います。

10:30-12:00	カリキュラムテーマ活動：外遊び LCSHのスタッフがきめ細かくプランした活動では、多種多様な媒体や教材、学びのスタイルを体験します。保育士は、学習ユニットのテーマに直接結びつく活動を促します。アウトドア活動では特に、自然との結びつきなど、生涯に渡って利益をもたらすテーマに注意をひきつけるような活動をします。また、子ども達が体を動かすことで、大小の筋肉機能の発達も促進します。
12:00-12:30	昼食 朝のおやつと同様、昼食でも健康的な食の習慣を身につけます。
12:30-1:00	バスルームタイム 朝のバスルームタイムと同様ですが、この時間にはストーリータイムがあり、リラックスしてお昼寝の準備をします。
1:00-3:00	休息タイム 休息でリラックスし、リフレッシュします。 子ども達が休息中、保育士は活動やカリキュラムの準備をします。
3:00-3:30	バスルームタイム 休息タイムの後のバスルームタイムでリフレッシュします。
3:30-4:00	1日を振り返って 歌や本を使い、今日のトピック、学んだことを復習します
4:00-4:30	午後のおやつ 朝のおやつと同様、社交的インターアクションスキルを促進します。
4:30-6:00	自由遊び/外遊び：お迎え 天候や外の明るさにより、インドアまたはアウトドアで活動します。
6:00-6:30	お迎え：読書 お迎えを待つ間、読書などで言語の発達を促します。お迎え時には保育士が保護者と今日1日について話をします。

持ち物リスト

持ち物すべてに記名をお願いします。また、登園時は天候に適した遊び用衣服、洗濯が可能な衣服で登園して下さい。衣服の損傷、紛失については当センターでは責任を負いません。

乳児クラス(インファント)：かわいいスイートピー達

- おむつ
- おしりふきワイプ
- 軟膏(任意)
- 着替え 2 組－季節に合ったもの
- 靴下 2 組
- 帽子－季節に合ったもの
- おしゃぶり(必要な場合)
- 日焼け止め(年齢に合ったもの)
- ランチボックス－食品保存用のブルーアイスも含む(毎日持ち帰り)
- 離乳食開始時にはスプーン等

幼児(トドラー)：小さなパドルジャンパー達

- おむつ
- おしりふきワイプ
- 軟膏
- 着替え 2 組(トイレトレーニング時には 3 組以上)
- 帽子－季節に合ったもの
- 手袋予備(1 組はクリップでジャケットに留める)
- 日焼け止め、水着、ウォーターシューズ－夏季
- 上履き－クラスルーム内で使用
- 寝袋(2 週間ごとに自宅へ持ち帰り洗濯)
- ランチボックス－食品保存用ブルーアイスも含む(毎日持ち帰り)
- 歯ブラシ、歯磨き粉

プレスクール：小さな探検家達

- おむつ、おしりふき、軟膏(おむつが取れていない場合)
- 着替え 1 組－季節に合ったもの(おむつが取れていない場合は 2 組以上)
- 帽子－季節に合ったもの
- 手袋予備－冬季(1 組はクリップでジャケットに留める)
- 上履き－クラスルーム内で使用
- 寝袋(2 週間ごとに自宅へ持ち帰り洗濯)
- 日焼け止め、水着、ウォーターシューズ－夏季
- ランチボックス－食品保存用ブルーアイスも含む(毎日持ち帰り)
- 歯ブラシ、歯磨き粉

Pre-K：小さな学者達

- 上履き
- 帽子－季節に合ったもの
- 手袋予備－冬季(1 組はクリップでジャケットに留める)
- 日焼け止め、水着、ウォーターシューズ－夏季
- セーター/スウェットシャツ予備－防寒用
- ランチボックス－食品保存用ブルーアイスも含む(毎日持ち帰り)
- 着替え
- 歯ブラシ、歯磨き粉

行動管理

LCSH は、早期発達の原則に沿った質の高い幼児教育を提供することを目的としています。そのためには、規律/躾が重要であること、規律/躾が各々の子どもに与える影響を認識することが重要と考えます。LCSH ではこの方針に基づいた躾を行います。下記は、LCSH での躾のガイドラインです。

躾のガイドライン

1. どのような形での体罰も与えない。
2. 食べ物や昼寝、バスルーム等の活動に関係する罰は与えない。
3. 大人の基準を押し付けるのではなく、子どもの学びのプロセスを手助けするための建設的な躾を行う。
4. 子どもの年齢、知性、感情的回復、また過去の体験等を考慮する。
5. 辛抱強い態度で望み、子どもがより良い社会的習慣を身につけるための手助けをすることを理解する。
6. 躾は公平で一貫性を持って行い、なぜ罰を与えるのかを子どもが理解できるよう最大限の努力を行う。
7. 一人の子どもをスケープゴートにしたり、特定の子どもを例に挙げない。
8. 良い行いを褒める。このアプローチは罰を与えるよりもはるかに効果的。
9. 子どもが罰を受け止め、そこから学ぶことができるかどうかは、自分が愛され、受け入れられているという感情に負うところが大きいことを理解する。
10. 子どもの監督、指導、躾については全スタッフが同意していること。
11. 子ども自身や家族に対して言葉による虐待、脅迫、軽蔑的な発言はしてはならない。
12. 暖かく、同時に堅調なトーンで語りかける。
13. コントロール範囲を超える行動があったり、他の子どもに危害を与えるような行動があった場合にはディレクターに知らせ、当該児童の保護者に連絡を行う。他の子ども個人やグループ、または他の保護者が自身以外の子どもに罰を与えるようなことがあってはならない。

センター開園時間

LCSH は定められた祝日、早期閉園日（「祝日」のセクション参照）をき、月曜日から金曜日まで、朝 6：30 から夕方 6：30 まで開園しています。毎日一定の時間の登園、お迎えは、子どもに安心感を与えます。

保育士とその日一日の様子等についてお話を希望される場合は、スタッフが午後 6 時には勤務を終了できるよう、午後 6 時以前にお越し下さい。スタッフも勤務終了後はそれぞれの家庭へ帰ります。また、お迎え時間については、それぞれの子どものニーズに合わせて調整をお願いします。子どもが帰宅前に保護者の方と遊んだり、本を読んだりする活動が必要場合名は、十分な時間を取るため、時間に余裕を持って午後 6 時 30 分以前にお越し下さい。

Little Corner SchoolHouse

遅延料金： LCSH 設置の時計が基準ですーセンターの終了は午後 6 時 30 分です!お迎えが午後 6 時 30 を過ぎた場合、慣習として、子ども 1 人当たり 1 時間につき\$1.00 の遅延料金を先生に直接お支払いいただきます。午後 6 時半を過ぎるとすぐに遅延料金が発生し、センターを出る時間まで計算の対象となります。遅延料金は、子どもと滞在していた保育士本人が受け取るものであり、センターへお支払いいただくものではありません。

祝日

LCSH は下記の祝日に休校となります。祝日が週末と重複した場合には翌日等に調整する場合があります。祝日による休校日については、月謝の払い戻しは行いません。

休校となる祝日：

- ・ 元日*
- ・ プレジデント・デイ (スタッフはスタッフ研修のため登園)
- ・ ペイトリオット・デイ (マラソンマンデー 緊急車両以外道路閉鎖)
- ・ メモリアル・デイ
- ・ 独立記念日*
- ・ レイバー・デイ
- ・ コロンブス・デイ
- ・ ベテランズ・デイ
- ・ サンクスギビング・デイ
- ・ サンクスギビング・デイ 翌日
- ・ クリスマス前の最終開校日は午後 2 時で終了**
- ・ クリスマス*

*祝日が週末に重複した場合は、通常開園日に振り替えることがあります。

**早期閉園日には、子ども 1 人当たり、1 時間当たり\$1.00 の遅延料金が適用されます。遅延料金は、子どもと滞在していた保育士が受け取るものであり、センターが受け取るものではありません。

雪/緊急事態による休園

悪天候 (または地域や国家緊急事態) の場合でも、センターは可能な限り開園する努力をします。止むを得ず休園する場合は、ラジオでは WBZ 1030AM、TV では WHDH-TV チャンネル 7 を通じて、午前 6 時までに告知します。不明の場合は、午前 6 時 30 分以降にセンターの留守番電話で休校または遅延開園等のメッセージが流れますので、センターへ電話をして下さい。

開園中に天候が悪化した場合は、センターは閉園の措置をとる可能性があります。閉園となる場合は、全保護者へ閉園時間を連絡します。緊急時には確実に連絡を取ることができるよう、常に最新の緊急連絡先をセンターへお知らせ下さい。

天候による休園の場合は、月謝の払い戻し、または振替登園等の措置は行いません(パートタイムの場合も含む)。

方針と手続き

送迎

登園時、お迎え時には保護者は必ず担当の保育士に声をかけ、登園したこと、あるいは迎えに来たことを、伝えて下さい。ただし、保育士が他の子ども達から注意を逸らすに済むよう、特にプレイグラウンドなどでは保育士との会話は簡潔にお願いします。必要であれば、面談の機会を別途設けます。

午前 9 時以降に登園する場合は、担当の保育士へ知らせて下さい。

いかなる事情においても、子どもを 12 時以降に引き取り、再度センターへ戻る必要がある場合には、事前にクラスルームの保育士に相談して下さい。また、127 Harvard Street の Pre-K クラスルーム前のドライブウェイには駐車が出来ません。

入園手続きとデポジット

初回面談の後、センターはスペースの開き状況をお知らせします。スペースが有り、お子さんのスポットの確保を希望する場合には、1 ヶ月分の月謝の金額をデポジットとしてお支払い下さい。一旦お支払いいただいたデポジットは、納入後に当センターの入園を取りやめた場合でも、返金はできません。待機者リストにいた場合で、入園を取りやめた場合も同様にデポジットの返金はできませんのでご了承下さい。

デポジットは、お子さんが卒園する際の最終月の月謝に充当します。開始月の月謝は、入園当日までに納入をお願いします。また、デポジットは、お子さんの進級やスケジュールの変更等によって調整します。例えば、プレスクールの月謝金額はトドラークラスの金額より低くなっていますので、トドラークラスからプレスクールへ進級した場合には、差額分がクレジットとなります。(差額分の返金はできません。)

デポジットは、署名済みのハンドブック確認書を添付の上、納入をお願いします。この確認書は LCSH より別途お渡しします。またこの確認書にはお子さんの親権を保有するご両親、保護者の方全員の署名が必要で、署名により、ハンドブックを読み、内容を理解し、LCSH の方針と手続き方法等に同意したものと見なします。

LCSH では、登録料金は不要で、毎年更新登録料金等はありません。

月謝

月謝と納入スケジュールについては、現行の月謝スケジュール(別途配布)をご覧ください。月謝スケジュールには、その年の月毎の週数と、金額、納入締切日が記載されています。パートタイムの場合は、最低週 3 日分の料金を納入いただきます。

Little Corner SchoolHouse

月謝は前払いで、毎月の週数分を前月の最終金曜日までに納入下さい。(例：3月の月謝は2月の最終金曜日が納入締切日です。)

各月により、4週の月と5週の月を定めています。5週となる月は年によって変わります。毎年11月に翌年の月謝スケジュールを発行します。

当センターでは入園を随時受け付けているため、月謝も月毎の計算ではなく週数で計算しています。空きスポットがあれば、1年のどの月からでも入園が可能で、上級クラスへの進級も各々の子どもの発達状況に応じて行います。(毎年秋に一斉の進級ではありません。)この方法により、子どもが通園する月分の月謝のみのお支払いとなり、不必要な支払が発生しないよう考慮しています。

雪による休園、休暇による欠席、病欠、祝日による休園、遠足の欠席、または緊急にセンターを休園または早期閉園した場合も、月謝は減額となりません。パートタイムのお子さんの欠席についても振替登園はできません。月謝の納入期限日に休暇等不在の場合は、休暇に入る前に予め納入をお願いします。

慣れ保育期間でプログラムに終日参加しない日も、通常の月謝料金となります。慣れ保育期間も月謝の減額はありせん。

お子さんが110 Harvard Street または 127 Harvard Street のリトルコーナースクールハウスへ通園する場合は、小切手は Little Corner SchoolHouse, Inc. 宛て、396 Washington Street のリトルコーナースクールハウスへ通園する場合は、o: Little Corner SchoolHouse Too, LLC 宛てでお願いします。

月謝は次の方法で支払が可能です：オンラインのクレジットカードまたは電子小切手、小切手の郵送、センターへ小切手を持参。税金控除用には、支払済み小切手をレシートとして使用して下さい。小切手でお支払いの場合は、お子さんの名前を小切手のメモ欄へ記入して下さい。

月謝の値上げが必要になった場合には、LCSHは値上げの4ヶ月前(120日前)に各家庭へお知らせします。

延滞料金： 月謝が締切日を過ぎて5日以内に支払われない場合は、子ども1人につき\$20.00の延滞料金が課せられます。延滞料金も含めて月謝が締切日を過ぎて7日目までに支払われない場合で、センターのディレクターが特別な支払い方法を承認していない場合は、当該の子どもは退園の対象となることがあります。

月謝に関する質問： 月謝についての質問、またはより詳細の情報が必要な場合は、accounting@littlecornerschoolhouse.com までEメールでお問い合わせ下さい。

退園

退園に際しては、退園日の遅くとも 60 日前までに、書面でセンターのディレクターまでお知らせ下さい。保育士、子ども、クラスメートにとって、退園に向けての準備期間があることは非常に大切です。書面による告知が無い場合は、入園時に納入いただいた 1 ヶ月分のデポジットは適用されません。**最終月の最終日まで通園しない場合も、月謝の減額を行いません。**また、月謝を納入後、最終金曜日より以前に退園した場合でも、月謝の返金はできません。

入園時に納入いただいた 4 週分のデポジットは、退園する前の最終月の月謝に充当しますが、最終月が 5 週月の場合は、差額の 1 週分をお支払いいただきます。

例：

1. 6 月 30 日付けでお子さんの退園を希望する場合は、4 月 30 日までに退園の通知を書面で行って下さい。(5 月分の月謝と共に)。入園時に納入いただいたデポジットは 6 月の月謝に充当します。ただし、6 月が 5 週の月の場合は、差額の 1 週間分を 6 月の月謝としてお支払い下さい。
2. 6 月 15 日付けで退園を希望する場合は、4 月 15 日までに退園の通知を書面で行って下さい。入園時に納入いただいたデポジットは 6 月分の月謝に充当します。6 月の残りの週数分については返金はありません。月の途中での退園については、月謝の減額や返金、クレジットはありません。

60 日より以前に退園がわかっている場合には、可能な限り早めにセンターへお知らせ下さい。当センターや他の LCSH ファミリーの皆さんにとっても、今後の進級、入園のプランを行う際に、たいへん助かります。

契約終了について

お子さんの退園が、センター、他のクラスメート等にとって最善の策であると当センターが判断した場合には、書面にてセンターより通知を行います。保護者と面談を行って問題点やご家庭の状況について話し合い、今後の改善策を協議するものとします。

注： 当センターの子ども達、スタッフにとって、お子さんの退園が最善の策と止むを得ず判断した場合には、LCSH は当該児童/家庭との契約を即時に終了する権利を有します。

慣れ保育について

新入園児： 新しく LCSH に入園した際には、子どもの環境への順応状況に応じて通常 1 週間から 2 週間の慣れ保育を行います。慣れ保育では、1 日 2-3 時間の保育から始め、徐々に保育時間を増やして最終的に終日保育とします。慣れ保育の間は、ご家庭でも柔軟にスケジュールに対応して下さい。特に慣れ保育の間は、ご両親のいずれがの方のお迎えが可能であれば、お子さんも心強く、スタッフも慣れ保育の進捗状況についてご両親と話ができますので、出来る限りご両親のお迎えをお願いします。

慣れ保育でプログラムに終日参加していない期間でも、月謝は全額お支払い下さい。
慣れ保育期間の月謝の減額はありません。

在籍児童のクラスルーム移動/進級： LCSH では各々の子どものニーズに基づいて進級プランを作成します。進級プランでは、発育の様子、過去における新しい保育士への慣れ具合、他の生活の状況(例えば、新居への引越や兄弟が生まれた、等)も考慮し、保護者と協議を行って、同年齢のクラスメートと一緒に進級ができるよう調整します。進級時には、慣れ期間として、新しいクラスルームで過ごす時間を1日2-3時間から徐々に増やし、最終的には完全な進級となります。慣れ期間中に新しいクラスルームで過ごす以外の時間は現在在籍するクラスルームで過ごしますので、進級に伴う慣れ保育の期間に追加のチャイルドケアを手配していただく必要はありません

プレスクールから Pre-K への進級： Pre-K への進級では、LCSH のみでなく Pre-K プログラム全般で特別に配慮すべき点がありますので、ご注意下さい。

- ・ **プレスクールから Pre-K への進級：** 通常 Pre-K クラスルームでは、キンダーガーテンへの進級が秋と決められているため、年度途中でスポットが空くことが少なくなっています。当センターでは、プレスクールから Pre-K へ進級する子どものスポットを確保するよう最大限の努力をしますが、全員が4歳の時点で Pre-K へ進級できないこともあります。各々の子どもの進級プランについては、保護者の方と協議の上、具体的に作成します。
- ・ **Pre-K からキンダーガーテンへの進級：** ほとんどの市町村では、9月の第1月曜日にキンダーガーテンが始まることは稀です。保護者にとっては、チャイルドケアが毎日必要ですから、このスケジュールでは問題がある場合もあります。Pre-K プログラムでは、このような事情を考慮し、この間も子どもの受入れを行いますので、9月初めの登録が定員を超える事態が発生することがあります。当センターでは、それぞれの家庭の事情を考慮し、8月31日以降キンダーガーテンが始まるまでの期間、出来る限り各家庭のニーズにお応えできるよう最善を尽くします。キンダーガーテンへの進級プランについて協議が必要でしたら、当センターのディレクターへ連絡をお願いします。早ければ早いほど、当センターでも多くの選択肢を提供することが可能です。

保育士の移動について

当然ながら、子どもは保育士になつきます。しかし、残念ながら保育士がクラスルームを異動になることもあります。当センターの保育士は、能力や技術を最大限に発揮するため、別のクラスルームへ異動になることもあります。また、出産や育児休暇を取ったり、別の職場への転職、稀ではありますが、解雇となることもあります。そのような場合には、子ども、保護者に通知し、子ども達が理解できるよう最大の努力をします。子ども達の混乱を防ぐため、退職した保育士が当センターを訪れる際には、事前にディレクター、またはエグゼクティブ・ディレクターの許可を得るものとします。

保育士の欠勤、休暇

子どもが登園した際に大好きな先生が不在だった、ということもあるでしょう。当センターの保育士達は非常に勤勉ですので、自身もリラックスしリフレッシュできるよう、休暇の取得を促進しています。また、1日の勤務時間が長いため、当センターの多くの保育士は週4日の勤務となっています。当センターには代行として長年に渡り勤務している保育士が多くおり、子ども達もよくなっています。常駐の保育士の休暇の際は、そのような代行的保育士が担当します。

保護者の参加について

- ・ 子ども達は、両親がセンターへ足を運び、一緒に過ごせる時間を楽しみにしています。ぜひクラスルームの活動や、センターのイベントに参加して下さい。
- ・ カリキュラムや活動についてアイデア等があればぜひお知らせ下さい。また、趣味や仕事等、クラスルームで共有できることがありましたら、お知らせ下さい。
- ・ 行事や連絡事項について保護者へ連絡を行う場合は、書面（お知らせメモ、カレンダー、お便り等）で行います。お知らせがあるかどうか常に確認し、連絡事項がある場合には必ずお読み下さい。特に、「スケジュールの確保をお願いします! (Save the date!)」の連絡は必ずお読み下さい。保護者の方に予定をしていただきたい行事については出来る限り事前にお知らせします。
- ・ 保護者はセンターに滞在中、またはセンターのイベントに参加中は、他の子どもの指導、注意等は行わないで下さい。問題が起こった場合は、スタッフに知らせて下さい。
- ・ 子どもの安全確保のため、保護者の皆様のご協力をお願いします。ドア、ゲートは、プレイグラウンドのゲートも含め、すべてを必ず閉めて下さい。駐車の標識やドライブウェイの標識に従い、横断歩道は塞がないようお願いします。プレイグラウンドでの保育士との会話は、保育士が子どもから注意をそらさずに済むよう、最小限にとどめて下さい。ただし、子どもの送迎に来たことは必ず保育士に知らせるよう、声をかけていただくようお願いします。
- ・ 送迎時のストレス軽減のため、登園時、お迎え時には少しの間保護者の方がセンターに滞在していただいてもかまいません。
- ・ 子どもと別れる際には、お迎えはいつ頃かを伝えるようにして下さい。これにより、子どもと家族、センター間で信頼関係が生まれます。
- ・ 子どもは、ドアや窓から保護者に手を振り、その後活動へ移行することがしばしばあります。

- ・ 子どもがセンターから自宅へ帰宅した際には、1日の活動や発見について話を聞いてあげてください。センターの保育士が昨日は家で何をしたかを聞くように、ご家庭でもセンターでの出来事に耳を傾けていただくと、より良い家族と保育士(センター)の繋がりを築く助けとなります。
- ・ 1日の終わりには、センターを離れたくない子どもも多く見受けられます。しっかりとさよならを言い、次にいつセンターに来るかを再度確認することで、スムーズに運びます。
- ・ 保護者の皆様には、このハンドブックの内容の理解と遵守をお願いします。親権のある保護者、法定後見人の方すべてがハンドブック確認書(別途配布)に署名の上、入園に先立ってLCSHへ提出をお願いします。

保護者による監督

保護者がセンターに滞在している間は、自身の子どもの監督に責任を負うものとします。保護者、友人、祖父母等が遠足に付き添う場合には、付き添っている子どもの監督に責任を負うものとします。

保護者は子どもの送迎時(登園、迎え)には必ず担当の保育士に声をかけ、子どもが登園したこと、またお迎えに来たことを伝えて下さい。登園、お迎え時には、保護者の責任において、上着等の脱ぎ着を行い、持ち物を所定の場所へ収納して下さい。幼児期の子どもは自立心が芽生え、ボタンかけやチャックの上げ下げ等を自分でやりたがります。このようなチャレンジには時間もかかりますので、あらかじめ余裕を持って送迎時間の計画をお願いします。

センター訪問

LCSHでは保護者の訪問をいつでも歓迎します。ぜひクラスルームの活動やランチタイム、遠足等に参加してみてください。両親や保護者以外の方が訪問される場合は、子ども自身、そして他の子ども達や保護者達にも問題が無いか確認の上、保護者を通してセンターで予めスケジュールを調整する必要があります。

保護者とスタッフのコミュニケーションは子どもが快適に過ごすためにも大変重要です。センターに電話をいただく際には、昼寝時間をお願いします。クラス活動中は、保育士は保護者と話をする時間を作ることができないことがあります。

保護者/保育士面談

子どもの発達状況について年に2回個別面談を行います。保育士や、ディレクター、エグゼクティブ・ディレクターとの面談を追加ご希望の場合は、いつでも調整します。長時間に渡る面談をご希望の場合は、月曜日から金曜日の朝7時30分から午後5時30分の間で、双方に都合の良い時間に面談をスケジュールして下さい。

Little Corner SchoolHouse

子どものお迎え時に保育士と話をご希望の場合は、6時までには終了できるよう、少し早めにお越し下さい。話が必要な場合は、特にプレイグラウンドや外遊びでの活動中は避け、別途面談の日時を設定していただくようお願いいたします。

また、保護者同士や保育士達とのコミュニケーションを図るため、ポットラックも行います。ポットラックは、ニュースレターや「スケジュールの確保をお願いいたします! (Save the date!)」のお知らせ等でその都度お知らせします。

事前に予定された欠席、休暇

子どもの欠席や休暇が事前にわかっている場合には、センターで子どもの安否の心配をせずに済むよう、書面でセンターへお知らせ下さい。おおよその欠席または休暇の予定期間も合わせてお知らせ下さい。欠席、休暇の場合も月謝の減額は行いません。

親権オーダー

入園に当たっては、認定済みの親権オーダーをディレクターへ提出して下さい。新しい親権オーダー、または親権オーダーが改訂された場合は、速やかにセンターへ通知をお願いします。

保護者の同意

事前に両親の両方から署名を得る旨をセンターと保護者の間で書面にて交わし同意していない場合は、センターでは、許可書に両親のいずれか一方の署名があれば、両親双方または保護者すべての許可を得たものと理解します。子どもの受け渡しができるすべての両親、保護者、または他の大人についてすべての方の名前と署名が必要な、「承認された成人」に関する書類は除きます。(下記「承認された成人」の項参照)

承認された成人

当センターのスタッフは、書面にて通知があった場合を除き、同意書に記載の方にのみ、子どもの受け渡しを行います。別の方が子どもを迎えに来る場合は、身分証明書を携帯するようお願いして下さい。スタッフと面識がある場合でも、身分証明書の提示を求める場合があります。また、お迎えの方と面識のないスタッフがお子さんと一緒にいる可能性もあり、面識のない方がお迎えの場合、すでに書面で通知をしていただいても、LCSH では子どもを受け渡す前に身分証明書の提示をお願いしています。

書面によるコミュニケーション

LCSH から保護者へ： お知らせやカレンダー、毎月のニュースレターは、各々の子どものロッカーに配布し、センターでの今後の予定、行事等について保護者にお知らせしています。保護者の責任において通知の配布があるかどうかを常に確認をし、お知らせ等が配布された際には、必ずお読み下さい。スタッフが口頭で情報をすべての保護者に伝えることは、スタッフが子どもにかかる時間を削ることになります。当センターでは、行事や連

絡事項の通知は書面の配布によって行うことを、正式な連絡の方法としています。本ハンドブックの配布後に生じた方針等の変更は、ハンドブックの付録として補足します。

保護者から LCSH へ： 緊急連絡先、親権変更、子どもの迎えに際し承認された成人、医療/処方箋情報、月謝に関する件、退園通知については、書面による通知が必要です。また、事前予定された欠席やセンターへの意見等についても、書面でお知らせ下さい。緊急時には、出来るだけ速く連絡が取れる方法(直接連絡、電話等)で、保育士、ディレクター、エグゼクティブ・ディレクターへ速やかに連絡を行い、必要な場合、またはセンターから要請があった場合は、後日書面でフォローアップをして下さい。Eメールによる通知は、緊急時以外、時間的に余裕がある場合にのみ使用をお願いします。

事故及び怪我

緊急時： 怪我などの緊急事態が発生した場合は、直ちに医師による手当て、診療を仰ぎます。緊急時には、医療機関への搬送にディレクター、またはスタッフが付き添います。スタッフが救急車の手配、保護者への連絡を速やかに行います。

子どもの医療記録、関連する許可書等を、子ども、ディレクターまたはスタッフと共に、最寄の病院または医療施設へ搬送します。

保護者または緊急連絡先の方と連絡が取れない場合は、当センターのスタッフが引き続き連絡をとる努力をし、搬送先の病院または施設で子ども、付き添いのスタッフと面会してもらうよう要請します。

緊急ではないが、医師による手当て、診療が必要な場合： 緊急でなくとも、医師による手当て、診療が必要な怪我等が発生した場合、当センターのディレクターまたはスタッフが保護者または緊急連絡先の方へ連絡をします。緊急連絡を受けた方は、速やかに子どもを引き取り、診療を受けて下さい。保護者が到着するまで、当センターのディレクターまたはスタッフが子どもに付き添います。

保護者または緊急連絡先の方と連絡が取れない場合で、子どもがセンター滞在中に手当て、診療が必要と判断された場合は、子どもは救急車で医療機関へ搬送しなければなりません。このような事態を避けるためにも、常に最新の緊急連絡先の登録をお願いします。

子どもの医療記録、関連する許可書等を、子ども、ディレクターまたはスタッフと共に、最寄の病院または医療施設へ搬送します。保護者または緊急連絡先の方と連絡が取れない場合は、当センターのスタッフが引き続き連絡をとる努力をし、搬送先の病院または施設で子ども、付き添いのスタッフと面会してもらうよう要請します。

緊急ではないが、現場での処置が必要な場合： 怪我の状態が緊急ではなく、スタッフが現場で処置可能な場合は、事故報告書を作成し、事故日誌に登録し、どのような事故が発生し、どのような処置を行ったかを説明する通知を事故当日に家庭へ配布します。

Little Corner SchoolHouse

家庭にて： お子さんがセンター外で怪我を負った場合は、センターのスタッフがお子さんの状態、お子さんが経験する可能性のある不快感等を把握するため、状況、状態を書面にてお知らせ下さい。完治していない傷やかさぶた等は包帯や絆創膏等で保護するようお願いします。

医療処置や搬送にかかった費用は各家庭の負担となります。

優先医療施設：

1. チルドレンズ・ホスピタル(子ども病院)： 300 Longwood Avenue, Boston.
2. 遠足等の場合は、最寄の医療施設

医療記録

入園手続きに先立ち、お子さんの医療記録、及び予防接種の記録の提出をお願いします。

医療記録としては、健康診断受診結果、鉛スクリーニング、HIB 予防接種、水疱瘡予防接種、ツベルクリンテスト(及び、入園に際してマサチューセッツ州が定めた予防接種すべての接種)の記録が必要です。**検査は毎年受診し、最新の記録をセンターへ提出して下さい。**

センターでは各々の子どもの健康報告書を機密情報として保管しています。健康報告書には下記の情報が含まれています：

1. 子どもの両親/保護者の氏名、住所、電話番号
2. 緊急時に保護者と連絡がとれない場合の緊急連絡先 2 名ー氏名、子どもとの関係、連絡先番号
3. 予防接種の記録
4. アレルギー情報
5. 子どもをセンターより引き取ることを承認された方のリスト
6. 両親または保護者と連絡が取れない場合の、緊急処置の許可書(署名済みのもの)
7. 保育士による観察記録
8. 早期療育(アーリーインターベンション)の記録
9. 薬物許可書

緊急連絡先情報

保護者の連絡先、または代わりの緊急連絡先等、緊急連絡先情報に変更があった場合は、**必ずセンターに通知をお願いします。**昨今の状況では、勤務先や携帯電話の番号の変更が頻繁です。緊急連絡先に変更があった場合は、書面にてセンターへ提出して下さい。

病気について

子どもが病気のため欠席の場合は、朝 9 時までにセンターへ電話で通知をし、病気の状態、お子さんの健康状態に関する情報等を知らせて下さい。特に**伝染や感染の恐れのある疾病については、病気の感染を防ぎ、適切な予防措置を取るため、必ずセンターへ連絡して下さい。**

伝染または感染の恐れのある子どもの保護者全員に通知をし、症状の発症がないか注意深く観察します。

特に冬の間は、子ども自身の養生と他の子どもへの感染を防ぐため、自宅待機をお願いする場合があります。下記のような状態、症状がある場合は、登園を控えて下さい。：

- ・ 倦怠感全般
- ・ 子どもが体調不良を訴えたり、明らかに病気と思える時
- ・ 101 度以上の発熱
- ・ 重度の風邪の症状や鼻水
- ・ のどの痛み、腫れ
- ・ 未診断または感染の恐れがある発疹、皮膚発疹
- ・ 嘔吐
- ・ 下痢
- ・ 未処理の頭シラミ
- ・ 眼の炎症
- ・ いかなる理由によっても、抗生物質を処方されている場合は、抗生剤の投与 24 時間を経過するまでは登園ができません。24 時間経過後登園が可能ですが、登園するには、センターへの登園開始が可能な日、及び他の子どもに感染する危険がなくなる日について小児科医が記載した通知が必要となります。

上記のような症状が見られた場合、またはスタッフが懸念を抱くような症状が見られた場合は、保護者に連絡しますので、子どもの引き取りをお願いします。緊急連絡先に変更があった場合は速やかにセンターへ通知して下さい。

学校、デイケアセンターには、病気の子どもの処置、世話をする設備がありません。また、病気の子どもが他の子どもや教師と接触することにより、疾病は更に拡大する恐れがあります。従って、病気の場合は自宅に滞在し、登園を控えて下さい。センターから告知を受けた場合は、保護者は速やかに子どもの引き取りを行うよう、最善の努力をして下さい。

いかなる事情でも、子どもが外遊びがいきそうに無いと判断した場合は、登園を控えて下さい。当センターでは、可能な限り外遊びを取り入れています。従って、個人的に子どもをセンター内に滞在させるためのスタッフの確保ができません。外遊びがあるかどうか判断がつかない場合は、センターへ電話でお問い合わせをいただいて結構ですが、常に天候に適した衣類や上着、帽子、手袋等の用意をお願いします。

隔離

センターで活動中に子どもに軽度の病気の症状が見られた場合には、センターから保護者に連絡をします。保護者に連絡がとれない場合は、緊急連絡先情報シートに掲載されている方に連絡をします。保護者、代理の緊急連絡先の方共に連絡が取れない場合は、子どもの小児科医に連絡をします。

切り傷、腫れ

完治していない切り傷や瘡蓋がとれていない傷、腫れ等は包帯や絆創膏で保護して下さい。

回復後の再登園開始

センターへ再登園を開始するには、まず第一に、子ども自身の気分が良いことが重要です。感染の恐れがなくなったり、熱が下がっても、まだ気分がすぐれないこともあります。自宅で待機した方が良い、と思われる場合には、登園を控えて下さい。

子どもの気分が回復し、下記の条件を満たす場合は、小児科医の許可が下りた場合に限り再登園を開始できます：

- ・ 感染の恐れがある発疹や寄生性疾病が完治した場合
- ・ 感染、または伝染の恐れがある疾病の感染、伝染期間が過ぎた場合

子どもの気分が回復し、下記の条件を満たす場合は、小児科医の許可がなくても再登園を開始できます：

- ・ 発熱－解熱剤を使用せずに 24 時間以上発熱が無い場合
- ・ 下痢－便が正常に戻った場合
- ・ 嘔吐－嘔吐が治まり、通常の食品を消化できるようになった場合
- ・ ピンクアイ/結膜炎－抗生物質軟膏の使用 24 時間経過後
- ・ 連鎖球菌及び他の細菌性疾患－抗生物質の使用により伝染の恐れがなくなった場合
- ・ コクサッキーウイルス、または他のウイルス性疾患－感染の恐れがなくなった場合

(上記は一部の例で、他の条件も適用される場合があります。)

医薬品管理について

子どもがセンター時間内に医薬品が必要となる場合があります。日付が記され、記名、使用方法等の情報が記されたされた医薬品に限り、スタッフが投与します。

医薬品は、子どものバッグ等に放置せず、必ず担当の保育士に渡してください。バッグ等は他の子どもがアクセスできるため、危険です。医薬品は、オリジナルのボトルで、子どもが開けられないようになった入れ物でセンターへ持参して下さい。

処方薬には下記の詳細を添付して下さい：

- ・ 子どもの氏名－投与を受ける子どもの名前で処方されたもの
- ・ 処方日と使用期限
- ・ 内容と投与量
- ・ 投与方法、指示
- ・ 医師の氏名
- ・ 薬局名

非処方薬

センターは、小児科医からの承認通知がある場合に限り、非処方薬（タイレノル、咳止め薬等）の投与を行います。承認通知には下記の情報が書かれている必要があります：

- ・ 子どもの氏名
- ・ 非処方薬名
- ・ 投与量と使用期間
- ・ 投与方法、指示

医薬品の投与が必要な場合は、子どもの保護者が所定の書類に記入し、投与が必要な期間は毎日提出が必要です。

子どもに投与した医薬品の記録は、投与の日付と時間、子どもの氏名、医薬品を投与したスタッフの名前と署名を含め、センターの記録ファイルに保管します。

1日の終わりに残っている医薬品は保護者へ返却します。保護者の責任において医薬品をスタッフより受け取って下さい。医薬品の投与が毎日、または長期に及ぶ場合は、センターからの引き取りの忘れ等があった場合のため、かかりつけ医または薬局に、自宅用（またはセンター用）の医薬品の処方を相談することも必要かもしれません。

医薬品は必要であれば冷蔵庫で保管します。子どもがセンターを離れる際にも冷蔵庫で持参が必要な場合は、別途保冷バッグ等に入れて持参をお願いします。

センターのスタッフは、局所薬については、必要な情報または処方がチューブに記載されており、保護者が書面で許可した場合に限り、投与を行います。スタッフは手袋を着用し、局所薬投与後速やかに手洗いを行います。

応急処置（ファーストエイド）について

この項では、当センターに保管している応急処置備品について説明します。怪我等の対応方法の詳細については「事故及び怪我」の項をご覧ください。

Little Corner SchoolHouse

- ・ 応急処置備品は子どもの手の届かない場所に保管しています。
- ・ スタッフ全員が応急処置の研修を受け、応急処置備品の正しい使用方法について指導を受けています。
- ・ 応急処置備品は、適切、適量の用品が備わっているよう毎月確認します。
- ・ 医療コンサルタントがセンターで常備しておくべき医療備品リストを作成します。

アーリーインターベンション(早期療育)

当センターのスタッフの判断により、アーリーインタベンションによるスクリーニングまたはプログラムが必要と思われる子どもについて、LCSH は下記の対応をします：

- ・ 保護者と面談を行い、懸念事項について協議をします。
- ・ 対応についての選択肢を協議します。
- ・ 治療やセラピーに関しては家庭が選択したスペシャリストと共同で対応します。

火災時の避難

センターでは火災時の避難計画を作成し、各建物のメイン出入り口横に貼り出しています。

マサチューセッツ州の火災及び安全の基準に従い、各クラスルームには非常口を2つ設置しています。火災時には、担当の保育士が出席簿を所持し、子どもを建物から避難誘導します。緊急連絡先情報が保管されている袋も建物から持ち出します。

担当の保育士の責任において、訓練時、訓練後の各クラスルームの子どもの人数を確認します。避難時にはすみやかに所在の確認を行います。

ディレクターは、建物内のすべてのクラスルームから全員が避難したことを確認後、最後に建物から避難します。建物の外に出た後、子どもを安全な場所へ誘導します。安全な場所とは、建物と同じ側の一番近いドライブウェイで、緊急車両から離れた場所、とします。

避難訓練時、または誤認警報の場合は、訓練終了後、または安全確認後に保育士が子どもを通常のカリキュラムへ戻します。実際に火災が発生し、避難が必要となった場合は、保護者に連絡し、子どもの受け渡しについてお知らせします。

その他の緊急事態

その他の緊急事態が発生した場合で、地域や国家の非常事態等、当センターの建物に直接被害が及ばない場合は、子どもはLCSH内に留まり、保護者が子どもの引き取りに来るまではスタッフと待機します。

Little Corner SchoolHouse

離れた建物のクラスルームを1箇所にとめて待機する場合がありますが、LCSH 外の場所へ避難することは、絶対的に必要と判断されない限りはありません。センターにはスタッフもあり、教材や備品、食料等を備えていますので、子どもが安全かつ快適に過ごすためにもセンター内で待機するのが良いと考えます。避難が必要となった場合には、保護者に連絡をし、子どもの引き取り方法についてお知らせします。

おむつ

保護者の責任において、適切なタイプのおむつを必要分と、おしりふきワイプをセンターへ持参して下さい。保管しているおしりふきが不足した場合や遠足時等には、LCSH 備え付けの標準タイプのおしりふきワイプを使用することがあります。子どもが特定のタイプのおしりふきワイプの使用でかぶれ等の症状がでることがある場合は、センターへ知らせて下さい。

おむつは 2～3 時間毎 (乳児、トドラーのみ) に交換するほか、必要時には交換を行います。

1. 保育士はまず手洗い後、子どもを抱きます。保育士がおむつ交換を行う時は常に非ラテックス製手袋を使用します。
2. 子どもは清潔な紙を引いたおむつ交換台に仰向けに寝かせます。
3. 使用済おむつは交換台に備え付けのおむつ用ゴミ箱へ廃棄します。
4. おしり前後部分をおしりふきワイプで洗浄します。女兒は感染症の危険軽減のため、前部分から後部分へ向けて洗浄します。
5. 自宅から持参しているクリームや軟膏がある場合は、入れ物のラベルに記載の指示に従って塗布します。
6. 使用済みおむつ、ワイプ、手袋はナイロン袋に入れ、備え付けのゴミ箱へ廃棄します。
7. 清潔なおむつをあて、衣服を着せます。おむつの漏れ等で衣服が汚れた場合は、子どものロッカーに保管の予備衣服に着替えを行います。汚れた衣服はナイロン袋に入れて封をし、自宅へ持ち帰って洗濯をしていただきます。
8. 保育士は汚れた手袋でシンクのハンドルに触らないよう注意しながら、子どもの手を洗い、手洗い終了後、プレイエリアへ戻ります。
9. おむつ交換台の紙は備え付けのゴミ箱へ廃棄します。
10. 汚れた手袋を廃棄し、保育士は洗剤、お湯を使用して手洗いを行います。

11. おむつ交換の後はその都度洗浄液で交換台を消毒します。
12. 排便の時間等は、乳児のみ、日誌に記録し、保護者に知らせます。

トイレトレーニング

トイレトレーニングはおむつ交換の一連の作業の中でも重要な作業です。トイレトレーニング中の子どもには、おむつ交換の都度、おまるやトイレを使用したいかどうか、声をかけて、促します。成功した場合には褒め、スタンプやシール等で賞賛します。「おもらし」もこの時期においては一般的で正常です。

子どもは、下着の着用、おむつの着用について、自分自身で決定します。クラスメート同士で励ましあい、助け合っていくことに、積極的な役割を担っています。

保育士は必要な場合には正式な身体部分の名称用語を使用しますが、子どもが特定の用語や単語を使用する必要はなく、自宅で学び、使用している用語を使用してもかまいません。

子どものトイレトレーニング期間中は、同時に衛生的な習慣を身につけるよう、保育士が指導します。子どもはトイレットペーパーを使用し、女児は感染症の軽減のため、前から後ろへ洗浄するよう指導を行います。

衛生

子ども、スタッフ全員が食事の前には手洗いを行います。

加えて下記の時にも手洗いを行います：

- ・ おむつ交換後
- ・ 体液(鼻水等)に接触した後
- ・ センターで飼育する動物や関連備品への接触後
- ・ 医薬品投与後

当センターで使用している手洗い方法は下記です：

- ・ 液体洗剤で手を洗う。
- ・ 摩擦法で、手をこすり合わせる。
- ・ 水で洗い流す。
- ・ ペーパータオルで拭く。

日焼け止めについて

保護者は、必要な場合、子供用の日焼け止めを持参して下さい。日焼け止めのボトルまたは入れ物には子どもの氏名の記入をお願いします。1日の中で必要な場合に、保育士が子どもにそれぞれの日焼け止めに塗布します。

遠足

子どもにとって遠足は、周りの世界を学ぶ重要な、そして楽しい機会です。通常は毎月または毎週の学習テーマに合わせて遠足を計画します。

入園手続き書類に入っている許可書は、LCSHの周辺地域、主にブルックラインビレッジ周辺やクーリッジコーナー周辺への散歩について許可をいただくものです。

LCSH 周辺地域外への遠足、または徒歩や園のストローラー（乳児の場合）以外での搬送が必要な遠足の場合は、別途許可書に署名をしていただきます。許可書には、遠足の日付、目的地、おおよその出発時間とセンターへ戻る時間が書かれています。許可書には両親、保護者の内1名の署名が必要です。許可書に1名以上の保護者の署名を必要とする旨、予めセンターと同意している場合には、必要な方全員の署名が必要になります。（「親権オーダー」及び「保護者の同意」の項参照）

遠足には、担当のスタッフが、無菌ワイプ、ドライアイスパック、絆創膏、応急処置クリーム、無菌ガーゼ、出席簿、各々の子どもの緊急連絡先、携帯電話の入ったリュックサックを持参します。

当センターのスタッフは全員応急処置及び CPR の認可を受けています。

子どもの遠足への参加を希望しない場合は、保護者の責任において別途チャイルドケアの手配をして下さい。 保護者が子どもの遠足への参加を希望しない場合は、LCSH は代わりのチャイルドケアの手配については責任を負わないものとします。

遠足には追加料金が必要な場合があります。LCSH は月謝以外の追加料金は避けるべく最大の努力をしますが、止むを得ず追加料金が必要な場合は、妥当な金額となるよう努力します。

公園及びプレイグラウンド

ブルックラインには美しい公園がたくさんあります。当センターでも様々な公園にしばしば散歩に出かけます。

センターでは、外の状況が安全で、健康に害が無い天候であれば、可能な限り、少なくとも1日に2回は外へ出かけることを目標としています。保護者の責任において日々天候をチェックし、子どもが外遊びの際に必要な上着や備品を用意していただくようご協力をお願いします。クラスメートの中にレインコートや長靴がない子どもが

Little Corner SchoolHouse

いる場合は、クラス全体が外出が出来なくなることもあり、春のレインシャワーの中で遊ぶせっかくの機会を逃すことにもなってしまいます。

公園の標識に従い、横断歩道はふさがないようにお願いします。また、公園の出入り口の安全ゲートは必ず閉めて下さい。公園で迎えの場合、保育士の注意が子どもから逸れることがないように、保育士との会話は最小限にとどめて下さい。

徒歩での散歩

徒歩で移動する場合は、保育士が出発、到着の際に人数の確認をします。各クラスに2名の保育士が動向します。プレスクールとPre-Kの遠足では、子ども10人に対し保育士1人の割合です。トドラークラスの遠足は、子ども4人に対し、保育士1人、または9人までの子どもに対し保育士2人の割合です。

スタッフは、子どもと道路を横断する際には横断歩道を使用しなければなりません。この安全習慣について自宅でも同様に実施されることをお勧めします。入園時に署名いただいた一般許可書は、LCSH/ブルクライン周辺地域の散歩を許可するもので、これらの散歩は「遠足」とは見なされないため、個々に許可書に署名をいただく必要はありません。

食べ物

LCSHでは、各々の子どもが自分のおやつ、ランチを持参します。私たちは、これによって家とセンターとの繋がりができると考えています。センターへ新しく入園した子どもにとっては、不慣れな環境でも、ランチボックスの中に家からの食べ慣れた食べ物、好物などを見ると、安心するものです。子どもが成長するにつれ、他のクラスメートが食べているものに興味を示すようになりますー他の食文化に触れ、様々な食習慣への興味が芽生えます。

センターでは、朝のおやつ、ランチ、午後のおやつがあります。子どもが朝8時以前に登園した場合は、センターで朝食を取る場合もあります。必要があれば保育士が電子レンジで温めます。トドラークラス、プレスクール、Pre-Kのほとんどの子どもの場合、通常1日に2本の飲み物が適当です。ミルクとジュースを持参する子どもが多くいます。センターでは1日を通して飲料水を補充して与えます。

センターのトドラークラスからPre-Kクラスでは、1週間に1日、「ピザ・デイ」にランチを買うことができます。ピザ・デイのランチでは、パスタや他の子ども向けの食事を用意することもあります。ピザ・デイのランチは有料です。ランチ購入の場合も、おやつと飲み物は持参して下さい。

センターでは、緊急補充用に食べ物と飲み物を用意しています。乳児クラスでは、1日分の十分な食べ物(腐らないもの)を持参して下さい。食べ物には記名をお願いします。

アレルギー： アレルギーがある場合は、必ずスタッフに知らせて下さい。

LCSH はナッツフリーのセンターです。ナッツはアレルギー反応を起こしやすく、深刻な健康障害を引き起こす子どももいます。ナッツやナッツオイルを含む食品が多数ありますので、購入の際あるいはセンターに持参する際には、食品の表示ラベルを必ず確認して下さい。

衣服及び備品

乳児、トドラー、プレスクールでは、季節に合った着替え一式をセンターに保管します。着替えには、ズボン、シャツ、下着、靴下が必要です。センターで着替えを使用し、自宅へ持ち帰った場合は、翌日代わりの着替えを持参し、補充をお願いします。センターへ持参する衣服、備品にはすべて記名をお願いします。衣類や持ち物の紛失についてはLCSHは一切の責任を負いません。

季節にあった遊び用の衣服を着用し、登園して下さい。冬季には、外遊び用に暖かい服、ブーツや手袋、冬用帽子等が必要です。また、センターでは、アートで使う絵の具等、非常に汚れやすい教材を使用することもありますので、汚れても良い衣服で登園して下さい。

子どもは、センター内、または外を裸足や靴下で歩くことを禁止されています。センターの中ではスリッパ等の使用をお勧めします。「フリップフロップ(ビーチサンダル)」スタイルのサンダルは、つまづき易く危険なため、センター内、または外でもお勧めできません。ゴム底の靴、例えばスニーカー等が最適です。冬季の外遊びにはブーツが必要です。夏季のスプリングラーでの水遊びにはウォーターシューズが必要になります。

夏季には水着とタオルを園に保管して下さい。水着は夏の間スプリングラーでの水遊びの際に着用します。衛生面を考慮し、水着は使用後センターで洗濯し、乾燥させます。ウォーターシューズは使用後干して乾燥させます。「高価」な水着やシューズはセンターには持参しないようお願いします。センターは水着やシューズの破損、損傷には一切の責任を負いません。また、水着やウォーターシューズを選ぶ際には、子どもの自立レベルを考慮し、自分で脱ぎ着し易いようなものをお願いします。

ショー&テル等の目的で保育士が許可した場合以外は、おもちゃや他の個人的な物品はセンターには持参しないようお願いします。例外：休息タイムに、子どもが気持ちを落ち着かせる目的で使用する柔らかいおもちゃ(ぬいぐるみ等)は持参可能ですが、休息タイム以外はロッカーに保管します。

衣服や持ち物の紛失

すべての持ち物には記名をお願いします。衣服や靴、靴下、水筒、おやつやランチの入れ物、フォークやスプーン、他の個人的な持ち物の紛失については、センターは一切の責任を負いません。紛失した場合には、センターの「ロスト&ファウンド(紛失物箱)」を確認して下さい。

休息タイムについて

ランチ後には休息タイムがあります。昼寝をする必要はありませんが、マットや寝袋の上で静かに過ごすよう指導をします。マットや寝袋で休息タイムを静かに過ごすことができない場合は、静かな活動をして過ごします。

昼寝(休息タイム)用寝袋

トドラー、プレスクール、Pre-K の子どもは全員寝袋を持参し、センターに保管します。各々の寝袋は個別の袋に収納して保管します。寝袋は洗濯のため金曜日に持ち帰ります。

風船について

LCSH では、どのような種類の風船も持参、取り扱いを禁止しています。窒息の危険に加え、多くの問題があるためです。

ペット

子ども、親、保護者、センタースタッフ、及び訪問者は、事前に書面でディレクターの同意を得ていない場合は、いかなる種類のペットや動物もセンター内へ持ち込むことはできません。

バースデーパーティー

センターでは誕生日のお祝いを推奨、歓迎します。誕生日の前月に担当の保育士に連絡し、お祝いに都合の良い日を相談して下さい。

ガイドライン：

- ・ パーティーは通常午後のおやつの時間に行います。
- ・ 保護者、兄弟の方がも参加可です。
- ・ 風船、シリースtring、コンフェッティ、ロウソクは不可です。
- ・ ピエロ等のエンターテイメントは不可です。
- ・ クラスの全人数分のケーキ、またはスナックを用意して下さい。
- ・ ナッツフリー規定の遵守をお願いします。
- ・ 紙皿やナプキン等も持参して下さい。
- ・ パーティー終了後は片付けをお願いします。
- ・ 多くの親御さんが「グディ・バッグ(お返し)」を用意されますが、必要はありません。クラスで使える本や CD 等が適しています。「グディ・バッグ」がある場合は、保護者用のメールボックスに入れ、センター内では開けないことになっています。グディ・バックは家に持ち帰るまで開けないこととし、子どもに適切な物であるかどうか確認をお願いします。

招待状の配布： 個人で行う誕生パーティーの招待状をセンターで配布する場合には、招待状を封筒に入れて封をし、招待する子どもの名前を封筒に明記して下さい。招待状はクラスルームの保育士に渡してください。保育士が招待状を子どものランチボックス等に入れます。クラス全員を招待しない場合は、その旨を招待状に明記し、招待していない子どもと問題が起きないように配慮をお願いします。全クラスを招待することは非常にたいへんですので、全員を招待できない場合も理解していますので、ご心配いただく必要はありませんが、問題が起こるのを防ぐ為、上記のルールはお守り下さい。

宗教/文化的祝日

センターのプログラムでは、特定の宗教や文化に関連した祝日を祝うことがあります。季節ごとの祝日について話し合うことで、特定の季節が始まったことを子どもが感じ取ります。バレンタインデーにはカードを交換し、愛情や友情について話し合います。ハロウィーンにはコスチュームを着てパーティーをします。母の日、父の日の週には、ファミリーデーと称して、親や友人たちと特別のお祝いを行います。

各家庭で、宗教的、文化的な祝日を祝う習慣がある場合は、ぜひクラスルームの保育士と話をしていただき、センターのプログラムにも取り入れたいと思います。当センターの子ども達は、世界の文化の祝日やお祝いについて学ぶことが大好きです。クラスルームにお越しいただき、ご自身の家庭の伝統についてお話していただける場合は、ぜひお願いします。

言語

LCSH では言語能力に関わらず、すべての子どもを歓迎します。当センターが、医療機関や大学が連立するコミュニティの中心に位置することから、初めて英語に触れる子どもも在籍しています。このような場合は、保護者が子どもの英語環境でのプログラムを理解、信頼し、家庭においても子どもをサポートし、問題があれば手を差し伸べる、という環境下で最も成功します。LCSH の保育士が子どもと話をする時には英語を使用しますが、多くの保育士が他の言語も話し、歌やテーマに則した単語を紹介するなどして、センターのカリキュラムにも取り入れています。

写真撮影

LCSH は、センターのパンフレットや宣伝、ウェブサイト等で写真を使用することはありません。センターの掲示板に掲載するためやプロジェクトに使用する目的での写真撮影は行っています。誕生パーティーやハロウィーンパーティー等のイベントに訪れた保護者が、自宅アルバム用に写真撮影を行うことは可能です。また、写真は、センターが在籍家庭用、時には入園予定の家庭に配布するニュースレターに掲載することがあります。お子さんの写真をニュースレターへ掲載することを望まない場合は、書面にてセンターへ通知をお願いします。

FAQ(よく寄せられる質問)

Q: 子どもにベストなスクールを探しています。リトルコーナースクールハウスはなぜ良いのでしょうか?

A: このハンドブックをぜひお読み下さい。リトルコーナースクールハウスが質の高いスクール、良心的なチャイルドケアセンターであり、安全面から学びの分野まで慎重にデザインされたカリキュラム等、あなたのお子さんにとって正しい選択であることがお分かりいただけたと思います。加えて、当センターは、法人組織経営というより、家族経営的な温かみがあり、暖かく寄り添いあった家族的なコミュニティです。オーナーはセンターに滞在してあらゆる面での監督を行っており、ディレクター及びスタッフは協力して働いています。あらゆる年齢の子ども達が生涯に渡る「学びへの関心」に目覚め、身につけることをゴールとしています。

Q: クラスルームが壁ではなく木のフェンスで仕切られています。これはなぜ従来型のクラスルームの設定より良いのでしょうか?

A: オープンクラスルームのセッティングにはいくつかの利点があります。子ども達は自分のクラスルームでのカリキュラムに集中する傍ら、他のクラスルームの子どもや保育士と知り合うことで、コミュニティの観念をより容易に発達させることができます。またこれにより、進級等で別のクラスルームへ移る時にたいへんスムーズに移行ができます。保育士にとっても、様々なクラスの子どものアクティビティーを知っておくことは、自分のクラスの子どもの指導にも役立ち、また他のクラスのバックアップが必要なときにも助けとなります。

Q: 他ではアートや特別活動等を削減してるスクールもあるようですが、LCSH ではなぜこのようなアクティビティーを毎週のプランに取り入れ続けているのでしょうか?

A: アートや音楽、料理、科学、演劇やスイミングは、子どもが自分の文化、周りのコミュニティ、世界に眼を向けた学びを行うためには必要な要素と考えます。当センターのカリキュラムはそのような点で、他のセンターとは異なるユニークなものとなっています。当センターのカリキュラムには専門家の指導によるセッションを毎回、毎週取り入れています。

Q: おやつやランチはスクールで用意するのではなく、家から毎日持参するのはなぜですか?

A: 当センターは、栄養のある魅力的な食べ物を子どもに与えたい、という保護者の意向をサポートします。私たちは、各々の子どもにとってどのような食事が必要でランチやおやつには何を食べるべきか、ベストな判断ができるのは保護者であると考えます。子どもがセンターでランチボックスを開け、食べ慣れたものや時には親御さんからのメッセージなどを見つけると、大好きな家との繋がりを感じるでしょう。また、別の子どもが食べている見慣れない物を見て、新しい食べ物への興味が湧いてくるかもしれません。もちろん、

Little Corner SchoolHouse

アレルギーや糖尿病、食品の規制がある場合には、子どもが何を食べるか保護者が決定することがベストです。

Q: 緊急事態の発生を望んではいませんが、万が一の場合でも子どもが安全であることを知っておきたいと思います。貴センターの緊急時のプランは?

A: その点は理解しています。保護者の方がお子さんをLCSHに連れてこられ、1日楽しく学びながら過ごすことを期待されている半面、万が一の緊急時には、LCSHのスタッフが、慎重にプランされた緊急時の対応に従って、お子さんを守ることを期待されています。リトルコーナースクールハウスは、マサチューセッツ州の火災及び安全基準に完全に準拠しており、各クラスルームには非常口が2箇所設置されています。当センターのクラスルームはすべて外部へすぐにアクセスができるようになっており、緊急時もエレベーターや長い廊下、階段を使用する必要がありません。乳児は独自の車輪付きベビーベッドで建物の外へ避難させます。当センターは安全面を特に重要視して設計を行っています。緊急時には子どもを建物の外の所定の安全な場所へ避難させ、避難前後に点呼を行います。必要であれば保護者に連絡をして、子どもの受け渡しを行います。当センターの緊急時の対応方法の詳細については、本ハンドブックの「火災時の避難」、及び「その他の緊急事態」の項を参照して下さい。ご質問がありましたら、いつでもセンターへご連絡下さい。LCSHの火災時の避難に関する情報は、各建物のメインの出入り口横に貼り出しています。

Q: 私は複数の子どもをLCSHに預けており、スタッフも私を良く知っています。しかし未だに建物に入る際にベルを鳴らして”入れて”もらわなければならないのはなぜでしょうか?

A: 子どもの安全を守る方法の1つとして、ドアはすべて閉めてロックしています。センター訪問の方には入り口のドアで挨拶し、用件を聞くようにしています。不審者の建物への侵入を防ぐためです。私たちは保護者の方の場合のみドアを開けます。また、保護者の方がクラスルームに入る際、スタッフがドアのところで挨拶することで、センター内に親しみやすいコミュニティの感覚を作り上げています。

Q: 誰が子どもを迎えに行き LCSH から引き取ることが出来ますか?

A: 基本的に保護者がLCSHから子どもを引き取らなければなりませんが、例外が1つあります。保護者の代理の成人が子どもの引取りを行う場合には、その代理の方について保護者の承認をセンターへ書面で提出して下さい。その上で、子どもの引き取りの際に代理の方の身分証明書の提示を求めます。代理の方が祖父母であったり、すでに面識のある方である場合も同様です。保護者から書面の承認がない場合は、いかなる場合も、保護者以外の方に子どもを引き渡すことはありません。

Q: LCSH のウェブサイトや、ハンドブックを含む資料に子ども達の写真がありません。理由があるのでしょうか?

A: 当センターでは、家族のプライバシーの保護と子どもの安全を優先しています。従って、子どもの写真を宣伝等に使用することはありません。またモデルやイメージ写真の使用についても、スクールとは関係を持たないので、使用はしていません。

Q: LCSH を訪問した際、アート作品は指定の壁部分にいくらか掛けてあるのみでした。なぜもっと多くの作品をディスプレイしないのですか?

A: 当センターの子ども達の作品はすべてすばらしく、大切な財産です。しかし、火災規定によれば、紙の作品のディスプレイに使用できるのは各クラスルームで1つの壁のみとなっています。センター内にディスプレイができない作品は、家に持ち帰ってもらい、自宅ですばらしい作品を楽しんでもらっています!

Q: 子ども達が公園で遊んでいる時には、全員、とても明るい蛍光色のTシャツに電話番号がプリントされたものを着ていますね。なぜですか?

A: 子ども達には公園で思いっきり楽しい時間を過ごして欲しいと思っています。しかし、クラスルームと同様に、公園でも子ども全員の所在を把握しておかねばなりません。蛍光色のTシャツは見つけやすいのです。また、万が一の緊急時には、Tシャツにプリントしてあるセンターの電話番号が役立つと思います。

Thank You!

ハンドブックをお読みいただきありがとうございました。ハンドブックに関してご意見がありましたらお聞かせ下さい。また、リトルコーナースクールハウスに関して、コメント、提案等がありましたら、センターへご連絡下さい。皆様からのご意見を参考にさせていただきます。当センターのイベントやアクティビティー、プロジェクト、そして改善点は保護者の皆様からいただいた提案に基づいています。お互いが学び合い、幸せで健康な子ども達の成育に手を携えて取り組みましょう!

エグゼクティブ・ディレクター
アイナ・ブラザー
617-244-1877
contact@littlecornerschoolhouse.com

メモ欄: